



# きすな 絆



まだまだ冷たい冬の風ですが、すこしずつすこしずつ春の足音が近づいています。芽吹きのはどこもかしこも明るい光にあふれていますね。

『あと十年生きると言って笑う夫 (つま) わたしも生きようタヤケコヤケ』 (鈴木瑠璃子)  
NHK介護百人一首で詠まれた作品です。こんなコメントが添えられています。

「夫82歳。58歳の時脳梗塞で倒れました。以来リハビリに励む歳月です。最近もの忘れも出て言葉も不自由になりました。」

タヤケに映し出される二人の影が映画のワンシーンのように浮かびます。

命の尊さに溢れまさに春。20年を超える介護の中から生まれた力なのでしょうね。



## シネマ紹介



### ～潜水服は蝶の夢を見る～

映画のはじまりは、全身マヒの主人公が意識を取り戻し、ベッドの上から左目だけで眺める風景を描き出す。43歳のときに脳出血で倒れ運動機能を完全に失ってしまったジャンが唯一動かせたのは左目のまぶたのみ。残された聴覚を利用し、読みあげられたアルファベットの該当箇所ではまばたきをして単語を綴りコミュニケーションをとった。原作は、実に20万回のまばたきによって書かれた同名の回顧録。(日本語出版 講談社) <「ぼくは生きている。話せず、身体は動かないが、確実に生きている」>・蝶のように飛び立つ想像力と記憶の中で「そんなメッセージが綴られている。



## がんばらないで 介護食



国立国際医療センターリハビリテーション科医長 藤谷順子

一日3度の食事作り、大変ですね。最近は市販の介護食も進化しています。うまく使いこなしながらがんばりすぎない介護をめざしませんか。

介護食は「硬さ」と「飲み込みやすさ」が食べる本人にあっているかどうかが一番のポイント。とくに「飲み込みやすさ」については近年研究が進み、特別用途食品制度の中に、最近の考え方を反映した基準による「えん下困難者用食品」も本格的で出回る予定。



お困りの方がいらっしゃいましたらお気軽に  
社協介護支援センター (45-3073) までご連絡ください。  
ケアマネが迅速に対応させていただきます。

